

一般財団法人 地域創造基金みやぎ

2011年 事業報告書

2011年6月20日（設立の日）～2011年12月31日

以下のとおり事業を実施したので、ここに報告します。

1. 事業モデルの構築〔大口・小口〕

a) 英国・ジャパンソサエティ様との協働事業

- 名称：「ジャパンソサエティ東日本大震災復興基金（ローズファンド）」
- 1891年に英国と日本の交流等を図るために設立された組織より、震災を機に集めた資金約6,000万円（その後約9,000万円に増額）について助成事業の企画・実施を協働で実施することになりました。当財団顧問でもあった故・加藤哲夫さんが訪英の際に交流があったことがきっかけとなりました。
- 岩手県、宮城県、福島県の被災3県の非営利・復興関係事業を対象として、各県500万円ずつ3県1500万円を計4回にわたり助成金として拠出する予定です。
- 2011年、第1期は計8件、1,397万円の助成を決定しました。

b) 日本・公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様との協働

- 名称：「こども☆はぐくみファンド」
- すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指して活動しているセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより、被災地域において0～18歳の子どもを対象に活動する非営利・復興関係事業を対象とした助成事業等の実施について連携を図ることとなりました。
- 被災3県を対象に、30万円、150万円、300万円～500万円規模の助成事業の企画・実施等を2011年より5年間にわたり実施します。
- 2011年は、30万円規模の小口助成を公募で、500万円規模の助成事業を非公募（計画助成）にて実施し、計15、1,220万円の助成を決定しました。

c) 日本・公益財団法人 日本国際交流センター 様よりご支援

- **【広報強化】**財団の業務は一般の方にとってはなじみが薄く、何をしているのかが分かりづらいという声を頂きます。他方、本財団は市民の皆様がたからご寄附を広くあつめて地域に助成をしていくという役割を担おうとしており、大きな課題があります。そこで、取材・執筆・編集経験のある人材を雇

用して、助成先の団体が地域や受益者にとってどのような役割を果たし、何を行っているのかを発信します。また、パブリック・リレーションについてのディレクションを経験者に依頼し、ウェブ等の制作も行います。

- 【パイロット事業調査等】新規事業として実施する融資関係の取組みの先行事例の視察、あるいは資金調達に関するパイロット事業の資金等、パイロット事業を行います。
- 本事業において、2012年1月より3ヵ年で合計1,000万円の助成が決定しました。

2. 事務局体制の構築

- a) 一般財団法人の設立登記：2011年6月20日
- b) 事務所の開設：2011年10月1日
- c) 事務局体制：計7人（専従職員4人、ETIC. インターン2人、出向1人）
※2012年3月末現在
- d) 企業からのご協力
 - カラーコピー複合機；富士ゼロックス株式会社より無償貸与
※認定NPO法人 ジャパンプラットフォーム（JPF）さんご紹介

本法人は、2011年3月11日の東日本大震災を契機に、NPO法人 せんだい・みやぎNPOセンターを母体として設立された財団です。設立時には、全国より331人の設立発起人の方と13件のご寄付を頂き、総額484万円をもって設立されました。ここに、設立発起人の皆さまには、厚く御礼を申し上げますと共に、引き続きご関心とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上